15977-15990.
NASA (National Aeronautics and Space Administration) (1988) : PDS Interactive Data Interchange, CD-ROM.
Pavri, B., J. W. Head, K. B. Klose, and L. Wilson (1992) : Steep-sided domes on venus: Characteristics, geologic setting, and eruption conditions from Magellan data, J. Geophys. Res., **97**, 13445-13478.
Pettengill G. H., P. G. Ford, W. T. K. Johnson, R. K. Raney, and L. A. Soderblom (1992) : Magellan: Radar performance and data products, Science, **252**, 260-264.
Sandwell, D. T., and G. Schubert (1992) : Evidence for retrograde lithospheric subduction on venus, Science, **257**, 766-770.
Saunders, R. S. ほか (1992): Magellan misson summary, J. Geophys. Res., **97**, 13067-13090.

NAKANO Tsukasa (1994) : Data on the Magellan CD-ROM's

〈受付：1993年5月21日〉

第4回地質調査所研究講演会

「惑星地質とリモートセンシング」

のアンケートから

昨年6月16日に東京・赤坂の三会堂ビル石垣記念ホールで第4回地質調査所研究講演会「惑星地質とリモートセンシング」が開催された．この講演会は毎年2回開かれている恒例の行事で，当日は民間企業や国立研究所，官庁関係，そして各地の大学からおよそ200名に及ぶ多数の参加者があった．当日の講演内容は以下の通り．

●特別講演
「日本の惑星探査計画の現状と将来」
文部省宇宙科学研究所惑星研究系教授　水谷　仁

●特別講演
「宇宙資源
—地球外惑星における水の存在とその意義」
文部省名古屋大学理学部教授　田中　剛

●講演
「地球と惑星のリモートセンシング」
地質調査所国際協力室　山口　靖

●講演
「同位体から見た太陽系年代史」
地質調査所地殻化学部　平田岳史
(現：東京工業大学理学部)

●講演
「リモートセンシングによる惑星地質学」
地質調査所地質情報センター　中野　司

特別講演を行った宇宙科学研究所の水谷　仁教授は，我が国が1996, 1997年に打上げを予定している火星探査「PLANET・B」計画や月探査「LUNAR・A」計画の内容を詳しく紹介し，我が国の宇宙開発がいよいよ目前に迫りつつあることを示した．名古屋大学の田中　剛教授や地質調査所研究者の講演については本特集号で詳しく紹介されている．

講演会の終了後に集計した参加者のアンケートには，「本講演会を聴講して初めて日本でも惑星探査計画を前向きに考えていることを知り大変興味深かった(学生)」，「地球で成されてきた地質に関するデータ解析の技術が，今後，惑星探査に利用されていく様子が具体例を通して良く理解できた(大学院生)」，「地質調査所が常に新技術に意識的に取り組む姿勢を今後も続けて欲しい(会社員)」，「基礎研究は個人的に進んでしまいがち．実用面を含めて，社会的ニーズを考慮しつつ先導・先駆的な研究をお願いしたい(会社員)」，「地質調査メーカーが手伝える部分を積極的に相談してもらい，研究開発に協力したい．衛星を利用した探査をもっとやって欲しい(メーカー・会社員)」，「惑星地質のデータを地調でも整備して広く誰でも容易に利用できるように情報提供の体制を整えて欲しい(学生・会社員)」，「タイムリーな企画だった．一層のPRが必要だ(財団職員)」などの意見が寄せられていた．

今後の地質調査所における研究の方向や方法を検討する上に，これらの意見を参考にしていきたい．

(研究発表会運営委員会：小玉喜三郎)